

共生・公正・創造



東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【シリーズ2】

JR総連・東労組が絶対に「『普通の労働組合』ではない」これだけの理由

異常な反国家・反権力主張固持のJR総連・東労組は本当に普通の労働組合！？

JR総連・東労組の役員たちは、口を揃えてJR総連・東労組は「当たり前の労働運動を愚直に推し進めている普通の労働組合」だと言う。

「世界に冠たる『普通の労働組合』」は、JR総連・東労組の大好きなセールス言葉で、これは松崎氏の講演や同労組の機関誌・紙その他に頻繁に登場する。しかも、「普通の労働組合」である以上、護憲・反戦平和活動に取り組むのは「当たり前」のことだからJR総連・東労組は「抵抗とヒューマニズム」をモットーにこれら当たり前の運動を地道に推進している。ところが、こういう「普通の労働組合」は遺憾ながら「現在のわが国では“唯一”」なので、権力はこれを絶対に許さないと弾圧してくる。権力が、微罪かつでっち上げで、「7名逮捕・起訴」という暴挙に出た「浦和電車区事件」（後述）は、まさにこの象徴的なものだ。だから同事件は冤罪である。冤罪・浦和電車区事件は『平成の三鷹・松川事件』である。

JR総連・東労組はざっとこんなふうに主張する。

素直な目で検討すると、この様な趣旨内容は、私には、だからJR総連・東労組は「『普通の労働組合』ではない」ということを彼ら自身が語っていることだと思っただけだが、松崎氏やJR総連・東労組幹部たちの頭の中は、そういう構造、思考回路になっていないらしい。だが、この論理でいくと、「JR総連・東労組以外のわが国の労働組合は全部『普通の労働組合ではない』 = 『異常又は異様な労働組合』だ」ということにならないか。「わが国で“唯一”（の労働組合）」を自負するとは、そういうことではないのか。

常々「世界に冠たる『普通の労働組合』」を自称するJR総連・東労組のこの種主張には、「独善」「傲慢」「偏狭」の匂いが紛々と漂っているように筆者には感じられる。

ともあれ、JR総連・東労組によるこの種主張の実際例をほんの数例、紹介しておく。

「結成以来、初めての激しい反弾圧のたたかいを支えたものは職場を基礎にした『当たり前の労働運動』である。権力はこの『当たり前の労働運動』を破壊するために弾圧を仕掛けてきているのだ。浦和電車区分会の団結権を守るための運動を『強要罪』として、しかも公安事件にしたのである」「われわれにかけられた大弾圧の背景には、『戦争のできる普通の国』日本へ急ピッチで突き進む政府、権力者の意志がある。『ヒューマニズムと抵抗』を掲げた『当たり前の労働組合』が政府・権力にとっては、邪魔なのだ」（奈良剛吉・JR東労組中央執行副委員長寄稿〈東労組OB会機関誌『我らの声』第5号〉）（JR東日本労政「二十年目の検証」13ページより抜粋）

民主化の声・声・声・・・

2005.9.16 その2

新潟地本への弾圧、まだ続く！

JR総連通信 778によると、JR総連は8月24日の執行委員会で、北陸地協の権限を凍結し、新潟地本から出ている斎藤議長、石田副議長の権限を凍結したという。

「総連通信」を詳しく読んでみると、

1. 3月25日、北陸地協第12回定期委員会において、斎藤議長、石田副議長が再任された。JR東労組本部は、両名が昨年の新潟地本定期大会で、「組織混乱の責任を負う」との理由で辞任していたことから、4月下旬、両名の辞任を新潟地本に指導した。
2. 5月10日、JR総連第13回執行委員会は、「JR総連役員は出身単組の推薦がなければ就任できず、両君の再任は認められない」ことなどを確認した。
3. 6月以降、JR総連は執行委員会決定を北陸地協に伝え、常任委員会を速やかに開催するよう指導した。6月末、斎藤議長から「検討するので時間をくれ」との申し出があり、7月16日に北陸地協三役会議が開催された。
4. 8月4日、斎藤議長から「地協役員人事については問題ない。したがって、常任委員会の開催も必要ない」との北陸地協三役会議の結論が、JR総連に伝えられた。

JR総連は8月24日に第3回執行委員会を開催し、「北陸地協は、JR総連執行委員会の決定および指導を拒否したことから、統制上の問題であると判断せざるをえない。したがって、執行委員会は北陸地協に委任した権限の凍結を満場一致で決定する」こととした。

新潟地本は、長野地本と同じように今年も東労組本部から、専従申請を認めず保留扱いにされているようだ。7月の大会で新執行委員になった渡部・稲垣両氏の専従指定は、面談で決めるという。これに対して新潟地本は、即時・無条件の専従指定を求めている。

くすぶり続けるJR総連・東労組の内部抗争、東労組の組合員不在の党派内闘争はいつまで続くのか。

所詮は権力争いだよ！

民主化の声・声・声・・・（続く）



< JR東日本ユニオン青年女性委員会
機関紙「青女魂」より >